

各位

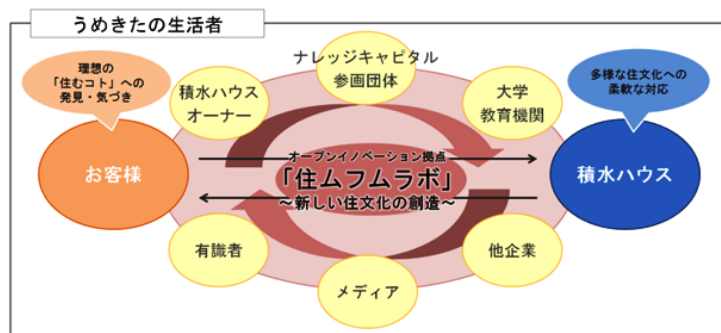
## 積水ハウス株式会社

～開設3周年、来場者45万人、研究メンバー1.5万人、常設展示もリニューアル～  
**暮らしの情報受発信・研究開発拠点「住ムフムラボ」**  
**「暮らし」や「五感」の共創研究開発で、これからの暮らしを創造**

積水ハウス株式会社(本社:大阪市北区、社長:阿部俊則)が、「感性を磨き」「私らしさを発見」できる情報受発信拠点として、また、「共創」による研究開発の場として開設した、「SUMUFUMULAB(住ムフムラボ)」(グランフロント大阪 北館ナレッジキャピタル4階)が4月26日(火)に3周年を迎えました。これからの暮らしのヒントとなる「新たな気づき」と「新たな行動へのきっかけ」を提供し、オープンイノベーションの魅力と可能性を伝える拠点として好評をいただき、来館者数は45万人\*に達しました。

3周年を機に、生活者の興味やニーズの変化、住まいが提供できる価値の拡大を踏まえ、これまでに実施した企画展などの中で来館者の関心が高い内容を反映して、常設展示をリニューアルするとともに、3周年を記念した企画やワークショップを開催します。

また、一般の生活者からなる「住ムフム研究メンバー」(会員数:1万5千人以上\*)や他企業などとの「共創」をより深め、住まい手にとって本当に価値がある生活提案や商品などの研究開発を推し進めて参ります。



「住ムフムラボ」の位置付け



新しくなった常設展示の例

「住ムフムラボ」は、大阪駅前の「グランフロント大阪」という、あらゆる世代や価値観の人々が数多く集う立地を活かし、来館者への研究アンケートや「住ムフム研究メンバー」によるワークショップ、グループインタビューなどによる「生活者の評価や意見」を新たな商品や生活提案の研究開発に活用しています。自らの経験をこれからの住まいに活かしていこうという意欲が高い方も多く、実際に住まいづくり・商品づくりに関わる機会となる研究ワークショップには毎回定員をはるかに上回る参加希望をいただいています。

この3年間の運営の中で、研究メンバーをはじめとした「一般生活者」や共創パートナー企業とのオープンイノベーションの取り組みを通じて、「暮らし」や「五感」に関わる研究データやノウハウを蓄積してきました。

私たちにとって「住むコト」は365日のテーマであり、「超高齢社会」「環境問題」「安全・安心への備え」などの社会課題の解決のために、住まいが担う役割は非常に重要です。

今後は、住宅内でのロボティクスやIoT(インターネット・オブ・シングス)、ビッグデータなどの先進技術を活用した研究開発もさらに進め、住まい手の暮らしの質を高めると同時に、様々な社会課題の解決を目指します。

「住ムフムラボ」は暮らしの魅力を伝える情報受発信拠点、これからの暮らしを創造する研究開発拠点として、進化を続けます。

\*2016年3月末現在

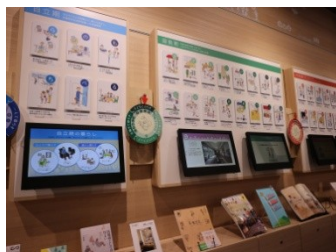
## ①常設展示リニューアルと3周年記念企画

社会の変化や、生活者の関心、ニーズが高いテーマを中心にリニューアル。ベースとなる「かぞくのカタチ」「いごちのカタチ」「いきかたのカタチ」の3ゾーンの中で、今回は住まいへの気づきを得る「住ムフムWALL」を12のテーマで再編しました。

実際のものに触れたり、タッチパネルの診断システムを用いて学べるコンテンツもより充実し、訪れた方それぞれが思い思いに関心を深めていただける構成になっています。

### ■新設のWALL例

「かぞくのカタチ」



〈家族のものがたり〉  
人生を大きく4つの「活動期」と捉え、それぞれのご家族の変化と住まいを考えます。

「いごちのカタチ」



〈エコこちのいぐらし〉  
ネット・ゼロ・エネルギーを実現する先進技術と日本の四季の魅力の共存を考えます。

「いきかたのカタチ」



〈らしく、インテリア〉  
「自分らしさ、我が家らしさ」を発見、実現するインテリアや収納を考えます。



「ラブ家事診断」



「打ち水体験」



「お手触れ木材」

### ■「住ムフムラボ」開設3周年企画

開設3周年の記念企画として、多くの方に参加していただけるワークショップやイベントを開催します。

#### 住ムフムクイズラリー 4月26日(火)～5月8日(日)

リニューアルしたWALLを巡るクイズラリー。大人もお子さまもお楽しみいただけます。

#### ダイアログ・イン・ザ・ダーク(DID) 第12回3周年記念プログラム「対話のある家」

4月26日(火)～6月27日(月)

これまでの体験者の声を踏まえ、「DID 対話のある家」の原点である「対話」の大切さを伝えるプログラム。真っ暗闇の時間を楽しみながら、改めて感じることを参加者同士が語り合い、「家族の対話」について見つめ直します。

#### イベント・ワークショップ・セミナー

展示リニューアルを記念し、「かぞくのカタチ」「いごちのカタチ」「いきかたのカタチ」の3ゾーンにちなんだテーマを取り上げ、「住むコト」を豊かにするイベントやワークショップ、セミナーなどを順次開催します。

5～6月は「いきかたのカタチ」をテーマに開催

- ・ワークショップ「BOX&NEEDLE \* コラボ『コンパクト収納ボックスづくり』」5月28日(土)・29日(日)
- ・セミナー「整理収納アドバイザー Emiさんの『家族が心地いい』整理収納術」6月2日(木)

#### 3周年プレゼントキャンペーン(研究メンバー限定) 4月26日(火)～5月31日(火)

研究メンバーの皆様にご挨拶として、これまでの人気コラボ企画にちなんだ素敵なプレゼントをご用意。プレゼントには、DIDの特別プログラム「真っ暗な中のティーパーティ」へのご招待も含まれます。

\*京都の老舗紙器メーカーによる世界初の箱店

## ②暮らしの情報発信拠点としての取り組みと成果

「住む」時間をより大切に感じ、従来の概念を超えてどのように「住む」のかを考える「きっかけづくり」の場。年間を通じて企画展、ワークショップ、セミナー、イベントを開催し、体験しながら感性を磨くとともに、「暮らしのアイデア」や「暮らしさ」を発見できる施設として、多数の方々にご来館いただきました。

「住むコト」への「新たな気づき」を発見し、これを共有したいと「次回は家族で」「親(子)と一緒に来る」などのリピーターや、お知り合いから勧められてご来館いただく方も増加しています。

### ■来館者の声(主な例)

- ・「二世帯住宅を検討中です。こちらの施設はとても参考になるので、次回は両親も一緒に来たいです。」
- ・「2回以上来ると、この施設の本当の良さがわかりますね。収納の事を勉強したいと思い、ラボにきました。こちらには書籍もたくさんあるので嬉しいです。」
- ・「家を建て替えようと思っています。ユニバーサルデザインの展示がとても勉強になりました。」
- ・「実家のリノベーションを検討しています。今いろいろな資料を集めているのですが、研究結果を見る事ができ、新しい情報を仕入れる事ができる施設はすごいですね。」

### ■情報発信拠点としてのデータ (2016年3月末現在)

- ・来館者数 45万人 お客様の95%が好印象、92%が再来訪の意向あり
- ・「かぞくのかたち」「いごちのかたち」「いきかたのかたち」の3ゾーン、暮らしに関わるテーマの常設展示
- ・住まいや暮らし、生活文化などをテーマとする古今東西の書籍2,800冊
- ・住むコトに関するイベントやセミナーを開催 開催日数 520日・参加者 16,000人
- ・ダイアログ・イン・ザ・ダーク「対話のある家」体験者数 10,267人  
開設以来、季節ごとのテーマに沿った11回の独自プログラムを展開。また、DIDを長年応援する茂木健一郎氏と、暗闇と人が感じる心地よさなどを紐解くスペシャルトークセッションも開催。



<対話のある家×茂木健一郎>  
「暗闇からみつける“くらしの幸せ”」



企画展「快適な夏の過ごし方」



ワークショップ「砂絵で作る子ども部屋の  
ルームサイン」



ワークショップ「好みの色柄で自分らしく  
アレンジ『デコパージュワークショップ』」

### ■イベント・セミナーの参加者の声

#### 企画展「快適な夏の過ごし方」

- ・「家の近所で、エコ活動をしているので企画展の打ち水などはとても勉強になりました。またご近所の友達を企画展がやっている間に連れて来たいと思います。」
- ・「実物で体感できてとても良い企画展なので、楽しみながら暮らしに活かせる。理屈を文字で伝えるよりも関心が高まり、勉強になる。」

#### イベント・セミナー

- ・「セミナーのお話テンポがあって、とても楽しく聞けました。目からウロコの家具選び…参考にしたいと思います。」
- ・「子どもが年少さんになり、ノリやハサミを使う工作が楽しくなってきた時なので良い体験になりました。頑張るパパを見ることもできました。」



### ③住まいの研究開発拠点としての取り組みと成果

暮らしや住まいに関心の高い、様々な層の方々が集まる「グランフロント大阪 ナレッジキャピタル」の立地を活かし、この3年間「住ムフム研究メンバー」をはじめ他業種の企業や大学など、様々なパートナーとの「共創」を進めてきました。「生活者にとっての価値」と「研究者にとっての価値」の双方を結び付け、生活者目線での共創研究開発を推し進めています。

#### ■研究開発拠点としてのデータ (2016年3月末現在)

- ・住ムフム研究メンバー登録数 15,846人
- ・研究ワークショップ 開催日数 45日・参加者931人
- ・研究アンケートの実施 テーマ数 42・回収数 17,288件

#### ■「共創」による研究開発の成果

「住ムフムラボ」での「共創」は、市場調査だけでなく、新たなアイデア創出、試作品の評価検証、商品化した製品の反響検証など、事業活動のあらゆる場面で活用。様々な世代、生活環境の方やDIDなどの共創パートナーとの研究開発により、生活者目線での提案、商品づくりが実現しています。

研究ワークショップの結果を設計に取り入れ、2015年4月に発売した「ベンチ付き玄関収納」は、「IAUDアワード2015」(主催:一般財団法人国際ユニヴァーサルデザイン協議会<IAUD>)において“IAUDアワード住宅設備部門”を受賞するなど、高く評価されました。

#### ■3年目に展開した共創ワークショップ



##### 「介護ロボットのある未来の暮らしを考える」

ロボット・医療用機器などを得意とするマッスル社との共同研究・検証により、ロボット技術について「共創」を進めています。実際に介護ロボットを体験していただくことで得た、一般生活者の意見やニーズを活かし、住宅で用いることが出来るロボット技術について研究を進めています。

##### 参加者の声

- ・「力作業の負担を助けてくれるので老夫婦2人だけの暮らしでも役立つと思う。」
- ・「その時の症状や家族の状態に合う介護ロボットを使用して、本人も周りの人も少しでも笑顔でいられるようにしたい。」



##### 「安心、快適。新しいパッシブデザインアイテムを検証しよう！」

日射しを調整したり、通風を叶えるアイテムに対して暮らしの中での経験や工夫をもとに意見交換とともに試作品を検証しました。

##### 参加者の声

- ・「パッシブデザインのワークショップに参加しました。驚くこともたくさんあり、とても楽しい時間が過ごせました。」
- ・「研究ワークショップに参加したら、色々な事も知ることが出来て私自身にとっても、とても為になりました。」



##### ダイアログ・イン・ザ・ダーク(DID)との共創研究

「対話のある家」のプログラム以外にも「“もしも”を感じる考える」「安心、快適。新しいパッシブデザインアイテムを検証しよう！」などアテンド(視覚障がい者)と一緒に「共創」を開始しています。

##### 参加者の声

- ・「暗闇だと瞬時に仲良くなれ、リラックスして意見も出しやすかった。」
- ・「何も見えないことがこんなに不安とは思わなかった。人との繋がりの大切さを感じた。」